

NPO法人 うしく里山の会 代表理事 坂 弘毅

あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかにご越年のことと拝察いたします。

昨年は超多忙な年となりましたが、皆様のご協力によりまして無事大過なく一年を締めくくることが出来ました事をご報告申し上げますとともに御礼申し上げます。

昨年は牛久自然観察の森の指定管理者の指定を受けるなど、里山の会として新たな展開の年となりました。2004年10月、法人格を取得以来、NPO法人のミッションである「公益性」「公共性」のある事業展開を進める事で受託事業も少しずつ増え、本当に多忙な一年となりました。

うしく里山の会は設立から間もなく4年目の春を迎えようとしていますが、今年こそは、設立趣旨にあります、牛久ならびにその周辺地域を主な対象として、「自然と人が調和した美しい環境を保全し、未来に引き継ぐ」ことを実践して参りたいと考えております。牛久にはまだ自然が残されています。この貴重な自然を復元または保全することが私たち里山の会のミッションではないでしょうか。

牛久自然観察の森の受託も2年目に入ろうとしていますが、職員のとゆまめ努力と行動で、魅力ある森として高く評価されるに至っております。受託前に比べて来園者が大幅に増えていることがその証でありましょう。森で蓄積された know-how を今度は観察の森から周辺地域に展開し、牛久市のビジターセンターとしての機能を持つことも大切であると考えております。

今年は団塊の世代が定年を迎える最初の年となりますが、これらの人材を里山の保全に取り込むと言うことも今年の大きな課題となります。

今年はNPO法人うしく里山の会として、更に信頼される団体として設立趣旨に沿った事業展開を考えております。皆様には今年もご支援とご協力をお願い申し上げます。

牛久自然観察の森園長 石神良三

新年あけましておめでとうございます。

牛久自然観察の森も、開園以来17回目の春を迎えることができました。これもひとえに森を愛する多くのボランティア、うしく里山の会、結束地区の皆さんをはじめ、関係各位のご支援とご協力があったことであり、心より感謝申し上げます。また、観察の森は「うしく里山の会」管理による運営の二年次に入りますが、園本来の目的を再確認しながら更なる実績を積み重ねて参りたいと思います。

さて、牛久自然観察の森の「里山の復活」状況も順調に進展しておりますが、自然の生態系上からは隣接する広大な「みどりの保全区」をめぐりにして考えることはできません。牛久自然観察の森とみどりの保全区を一体とした「結束の里山」の復活は、その面積や景観からも、後世に伝える里山遺産としての価値をより高めることにもなります。勿論のこと、所有者の方々のご理解とご協力を頂くことが大きな力となります。

「うしく里山の会」の独自活動としては、現在プロジェクトごとの活動が中心となり意欲的に展開されておりますが、更に各プロジェクトが一体となった活動として「隣接みどりの保全区の里山の復活」を位置づけ、会のミッションでもある「後世に残す里山づくり」につなげる拠点とすることはどうでしょうか。

牛久自然観察の森に携わる者として、少なくとも「自然観察の森だけは後世に残してやりたい」という気持ちでいっぱいですが、できれば結束の森全体が残ることへの努力が最良の選択ではなからうかと考えます。

初夢の一つとして、話題にして頂ければうれしく思います。

プロジェクト報告

雑木林応援隊 井戸掘りを終えて 報告：飯田 雅俊

ウントコシヨ、ドッコイシヨ、うんとこしょ、どっこいしょ、大きなカブを引っ張るおー、ならぬ小さな井戸を掘りあげよおーと夏から頑張ってきました。

前回までにおよそ6m掘りあげたことはお伝えしました。その次に掘り始めようとしたら、孔壁が崩れていて1mくらい埋っていた。暑い日で人数が少なく、前の深さまで掘るだけで大変であった。その日は掘削パイプを建て込んだまま終了とした。その後も、先端に取り付けた逆支弁が壊れたり、先端のパイプが破損したため新しいパイプにしたが、径を変えたため想像していたより逆支弁の効果は半減し、作り直しの必要が生じてしまったりとたくさんの学習をすることができた。

今日は11月12日、生協との竹林整備の協同事業。言いだしっぺとして生協との作業にかかわっていると、隊員の中では自然に井戸掘りにかかわる人と分かれてよいバランスができる。生協の人めめずらしげにロープを引っ張ったり、竹林整備参加者も何をしているかと見学したりと井戸掘り作業も並行して進められていった。

合同で昼食をとり、午後から生協の方は後片付けを行い終了とした。応援隊派全員集合となり井戸掘り作業となる、ムジナの里に響け声高らかに、掛け声とともに合いの手が入り、ロープ引く手に浮き上がる疲労、したたる汗、たぎる熱情。当初の予定深さはだれもしらないが、堀上完了となった。網戸のメッシュを巻いた管を建て込むが、掘りあげた深さまでとどかない。何度も持ち上げて落としているうちにスポッと落ちる。内管をつなげた手押しポンプを吊り上げて外管に挿入していく。仮止めをして呼び水を入れ、手押しを上下に動かす、濁水が出てくる、水がデター、やったー。そのとき、背中を向け肩が震えている者、下を向いている者、林に走っていった者、目を赤く晴らしたも者、喜びの表現はいろいろであるが、隊員は下記の写真のように思わずバンザイと表現した。心の中は知る由もない。



雑木林畑隊 畑の「アゼナミ」 報告：小野寺 拓郎

畑隊は名が示すように、畑の作業を主な活動目標にしています。無農薬を基に10年余になります。解消されない問題もいくつかあります。

そのひとつは、作物の病虫害あるいは鳥獣による食害です。病虫害はともかく、鳥獣のほうは餌場を提供しているわけではありませんから、ネット等で自衛します。

ふたつ目は作物以外に繁茂する雑草の始末です。畑作にはつきものと割り切ってしまうばそれまでですが、軽減するに越したことはない。一年性の雑草は、種子の飛散が主因でしょうから止むを得ないとしても、そうではない地下茎による侵入者であるドクダミ、アズマネザサ等は、畑の境界で進路を絶てれば、と考えたのが「アゼナミ」による自衛策です。

アゼナミは、田圃の漏水を防ぐ用具として使われているようですが、畑で使われている例は、これまで見当たりません。ただ、広大な畑地ならともかく、里山地域の畑は森林に隣接しているのが大半で、その接点の幅で森林の影響を受けやすいのは事実でしょう。こうした考えから、11月、境界にアゼナミ（幅0.45m×長さ20m）を埋設すべく、深さ0.6mの溝を掘りあげました。

これで地下茎の侵入が食い止れば、あとは畑に居残った地下茎も、2～3年除虫すればなくなる予定です。

アゼナミ（畦波？）は市販品ですが、この名前は広辞苑（昭和58年版）にも載っていません。



ジャガイモプロジェクト

収穫祭の感想

報告：横山さえ子

11月4日(土)の里いもの収穫祭は、向台自治会子育てサロン参加者、じゃがいもの収穫祭の参加者の親子12組32人と、一般参加者、里山の会員など45人のひとたちで楽しくにぎやかに行われました。親子参加の人たちに感想を聞いてもらいました。

<全体として>

- ・里山の会の方がよくしてくれてうれしかったです。
- ・たくさん人と自然にふれ合い、子どもにとってとてもよい体験になったとおもいます。大満足です。
- ・はじめて子ども私も里いものを掘りました。楽しかったです。里いものがこんなふうになるのを初めて知りました。
- ・じゃがいもの時に初めて息子と二人で参加し、今回は主人も加わり家族3人で楽しく参加させていただきました。
- ・参加させていただいて2回目ですがとても楽しく参加できました。自然にふれ合う機会が少ない今、とても貴重な体験ができました。
- ・会の皆様がたんせい込めて育てて下さった作物、おいしく楽しく掘り、食べさせていただきました。
- ・秋の天候にめぐまれた一日、子ども達とのおいも掘りは共に自然を満喫できた良き体験でした。
- ・実家の農家ではないのでなかなかこういう機会がないと収穫などの体験ができないので里いもの種類や、食べ方などを学び、とてもよい体験ができました。
- ・とても楽しく、おいしく、すごさせて頂きました。



撮影 戸塚 昌宏

<子どもたちの様子は>

- ・収穫した芋をうれしそうに運んでイキイキしていました。とにかく、よく食べさせていただき、おいしい～の連発でした。
- ・はじめはあまり積極的ではなかったのですが、とかげにさわったり、さつま芋をぬいてうれしそうでした。ふだんは食べない里いものを食べてびっくり!
- ・今まで怖くて虫を触れなかったけど、たくさん出てくるトカゲやカエルに大喜びで、つかまえていてびっくりしました。ふだんは少食だけど完食しました。
- ・前は掘りおこして頂いたじゃがいもを拾う感じでしたが、今回は自分で里いもやさつまいもを実感しながら収穫出来て楽しそうでした。収穫したばかりの里いもを調理してすぐに食べさせてもらえるのでとても満足です。
- ・前は虫が苦手な子でしたが、今回は自ら進んで虫にもふれあえ、汚れる事が嫌いでしたが、芋掘りも自ら汚れながらも掘ってくれたのでうれしかったです!
- ・土や虫にふれあい、とてもいきいきしていました。カレーうどんや、さつまいもむしパンが特においしかったようです。



撮影 戸塚 昌宏

そばプロジェクト

私のそば打ち体験

寄稿：松本 頼王

2006年12月2日(土)待ちに待ったそば打ちの日が来た。今日は天気も良く絶好のそば打ち日。朝食を早々に済ませ、そば打ち会場である香り高き牛久自然観察の森観察舎に向かった。途中まで行くと、早朝から森のレンジャーが落ち葉掃きをしていた。“オハヨウございます”と挨拶をして会場へと足を進めた。足元の落ち葉が、サクサクと気持ちが良い。会場では、そばプロジェクトの皆さんが、オハヨウございますと私を暖かく迎えてくれた。早速、会場の準備を手伝う。今日は子供さんを連れた家族3~4組と大人の総勢20名位参加されている。

秋山先生のそば打ちの心得を拝聴し、そば打ちは難しいものと思っていたが、秋山先生のお話を聞いて一寸安心した。4~5名のグループに分かれてそば打ちの実技に入った。今日は、そば粉8対地粉2の割合で作る2.8そばであったが、最初のそば打ち粉と地粉を間違えて、10割そばになってしまった。水まわしは指先を使って、生野菜を盛り付けるような気持ちで米粒のようになるまで混ぜ合わせる。次に、へそ出しである。この作業は、そばの良し悪しを決める大事な工程である。次にのしの作業。手でまるく平均にのばして、さらに麺棒を使って薄く伸ばしていく。そして、麺棒に巻き付けてさらに伸ばす。伸ばした麺はジャバラ折にして麺を細かく切る。そして、麺を茹で上げるのだが、ここで大変な問題が発生した。切った麺が解けない!このままでは“そばがき”になってしまう。打ち粉の使用量が足りなかったのである。何とか手で解したが反省!皆さんの作ったそばも美味しかったが、やはり最初に間違えて作ったあの10割そばは、こしがあって美味しかった。生まれて初めてのそば打ち体験であった。秋山先生、そばプロジェクトの皆さん、ありがとうございました。今日の空は素晴らしい秋晴れでした。



撮影 戸塚 昌宏

森の聞き取り 小野川水運の検証 その1

報告：坂 弘毅

結束の集落の北を流れる一級河川「小野川」は、つくば市の洞峰公園と同市小野崎の農家を水源としています。現在の水源帯には水が殆どなく、僅かな絞り水を集めて徐々に流れをつくり、同市北中妻地区で稲荷川を分岐し、牛久市を西から東端まで流れ稲敷市の古渡（ふっと）で霞ヶ浦に注いでいます。この川は今でこそ水田用の水に利用されるほかは漁業も水運も行われていません。しかし江戸時代、文化年間（文化10年・1813年頃）には小野川水運が開かれ、人口が急増する江戸への燃料供給基地となっていました。

牛久市域の小野川流域の村である柏田村や結束村は「天領」（江戸幕府直轄の地）で、「御林」と称されるアカマツ林（薪炭林）が広がっていました。牛久自然観察の森を含む結束村もアカマツを含む豊かな雑木林が広がり、薪炭による生業で村は潤っていたと云うことです。この薪炭を運ぶため、牛久市域には、猪子村から奥原村までの間に28艘の伝馬船（べか船とも言う）が川船御役所に「小野川通伝間（馬）造茶船鑑札請書」を申請し鑑札をうけていました。この船主が農家の兼業なのか運送業として専業の事業者なのかは確認できませんが、この小さな船で現稲敷市の伊佐津河岸（国道408号が小野川を渡るところ）まで運び、ここから高瀬舟に荷を載せ替え江戸まで運んでいました。この高瀬舟とは伝馬船よりもはるかに大型で、米俵600俵を積載できる能力がありました。ですから乗組員は4人で、交代で棹（さお）を操り、霞ヶ浦 利根川 関宿・江戸川 新川 小名木川（現江東区） 大川（現墨田区）という長い距離を往復していました。

江戸で荷を降ろして空身になった高瀬舟は、今度は江戸から生活物資を買い付け牛久に運びました。結束町の旧家では明治のはじめ火災による焼失で、家を再建したそうですが、その時使われた瓦の裏に「亀戸」（かめいど）と文字が掘られていたことが、最近行われた瓦の葺き替えで確認されました。この亀戸は前述の水運ルートとなっている小名木川の流域にある地名（現江東区大島と同北砂の間を流れる運河で亀戸に至近）ですから高瀬舟が瓦を運んだことが検証されました。そして牛久への帰路、再び小野川に戻りますが、霞ヶ浦から古渡に入り直ぐ、大変な関門がありました。それは現稲波（いなみ）干拓地付近が荒沼と呼ばれ川幅が沼状に広がった場所で、その先が再び狭い川幅になり、そこから再び羽賀沼という広い沼状の川となっていました、このヒョウタンのような二つの沼を結ぶ運河状の部分は川幅が狭く流れが速いため、大量の物資を搭載した高瀬舟は川を上りませんでした。そこで、荒沼の上流から羽賀沼までのくびれた川を上るため、「引舟」という職業がありました。引舟とは、高瀬舟にロープをつけて大勢で舟を引っ張ることで、それに携わる人を引舟人足と呼びました。これは大変な重労働であったと思います。引舟の地名も引舟橋や江戸崎八景の石碑にも登場します。また東京墨田区に曳舟川（別名：葛西用水）という運河があり（現在は埋め立てられ暗渠）ここにも曳舟という地名が残され、初代歌川広重の名所江戸百景にも登場します。稲敷市の引舟にまつわる史実について、稲敷市歴史民俗資料館の平田満男館長から私の推論は正しいと評価して頂きました。しかし、稲敷市の旧江戸崎町史にも記載されておらず、これからの調査が待たれるということでした。

今回の調査で協力を頂いたのは、竜ヶ崎歴史民俗資料館、稲敷市歴史民俗資料館、千葉県立中央博物館大利根分館。また牛久市史の民俗編を参考にさせていただきました。



安政4年 曳舟川絵図(歌川広重)

さとやまがっきゅう 秋と遊んでおこうよ！

報告：若林 和浩

第35回さとやまがっきゅう「秋と遊んでおこうよ！」が11月26日(日)に開催されました。曇り空の下ちょっとすっきりしない天気ですが、せっかくの秋。綺麗に紅葉した遠山の雑木林が待っています。それでは元気を出して出発進行！今回のルートは、春に開催した時と同じルートで遠山のフィールドへ向かうことにしました。このルート、ただの道ではございません。田んぼのあぜ道を進み、獣道のような藪の中を通り抜け、倒木をまたぎ、結構急な上り下りのある山を進みます。それだけでも面白いのですが、ただ歩いて向かうだけでは勿体ないので、ネイチャーゲーム「わらしべウォーク」を楽しみながら、春との自然の違いや、カラスウリなど秋の風情を存分に体感しました。

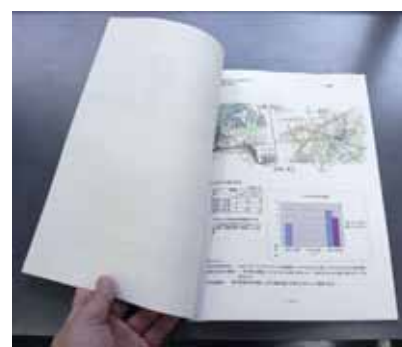
本当に遠山の雑木林は、上を向いても下を向いても赤や黄色に見事に色づいた葉たちに包まれて、まるで自分たちが、絵画の一枚の中に塗りこめられてしまったかの様です。その他にも、小動物になりきって、周りにある物で「巣」を作ってみたり、落ち葉でステンドグラスを作ってみたり、午後には松ぼっくりクラフトと盛りだくさんの内容でした。約6ヶ月ぶりのさとやまがっきゅうの開催となりましたが、17名と多くの参加がありました。中には初参加の子ども達もあり、少しずつですが、活動を広げております。来年早々にも活動を予定しておりますので、今後ともさとやまがっきゅうをよろしくお願いたします。



里山観察隊 平成18年度牛久市内自然環境調査

報告：高野美栄子

「ヘイケボタル生息調査記録」の冊子が出来ました。6月13日「昼間の調査」に始まり、「追加夜間観察」の8月29日に至るまで約2ヶ月半に渡り、牛久に生息するヘイケボタルを里山観察隊メンバーで調査した記録集です。平塚さんによる編集と田澤さんの丁寧なイラスト、本田さんのアドバイスによる製本...多くの皆さんの協力で11月16日遂に完成しました。お疲れ様でした。そして有難うございました。自分の無力さを感じつつ、ご指導して下さいました秋山さん、榎本さん、観察会に参加して下さいました里山の会の皆様へ感謝申し上げます。



ご覧になりたい方は里山の会に保管しますので見てください。そしてこの機会に地元のホテルに関心をもって頂けたらと思います。又、鳴く虫の記録も最後に添付しました。里山観察隊の1月の活動予定はありません。

牛久自然観察の森受託事業 森からのお知らせ

「森林育成ボランティア」募集！

カブトムシ・ホタル・フクロウのための森づくりに参加しませんか？それぞれの生息環境をエコアップする管理作業を実施します。寒い冬、落ち葉かきや剪定などで体を動かしてみませんか？

活動日：1月、2月の下記火曜日（本活動は12月より実施しています）

活動時間：9:30～12:00、13:00～15:00（片方だけの参加も可能）

- ・カブトムシの森づくり 1月16日、2月6日
- ・ホタルの森づくり 1月23日、2月20日
- ・フクロウの森づくり 1月30日、2月27日

参加を希望される方は事前に観察の森までお申し込みください。
牛久自然観察の森（電話 029-874-6600 担当：渡辺）

<写真：子ども達とカブトムシの森のエコアップを実施しました>



アヤマメ受託事業

報告：坂 弘毅

受託から2年目の今年、再生という大きな目標を半ば達成したと評価しています。昨年一年間は泥んこになって翌年の花期を夢見ながら必死でした。そして今年の花期、素晴らしい花が咲き誇り、来園する人たちから高い評価をいただきました。その評判を聞きつけた東京の観光バス会社はアヤマメツアーを組み、連日東京からの大型バスが横付けされました。こうなるとメンバー全員気をよくして、管理作業にも更に力が入りました。今年はアヤマメ園の一部を改造し、「牛久里の植物園」をオープンし、近隣の小学校から総合学習でも取り上げられ、大人しか来なかったアヤマメ園に子供達が飛び回るフィールドとして蘇りました。

二年目の後半も過ぎ、いよいよ最終段階に入りました。除草はほぼ完了し、畝を立て直し、池のヘドロの浚渫も終わり、昨年末よりも更に整備されたアヤマメ園が新年を迎えようとしています。花のない冬枯れのアヤマメ園の美しさを一度ご覧下さい。

今年一年無事故、無災害で無事完了できたことを皆様にご報告いたします。



巨木リサーチ事業

報告：羽賀 政雄・石川 満夫

幹周・樹冠の測定法と実施上の問題点について

報告：羽賀 正雄

樹高測定に続いて幹周及び樹冠の広がり(以下樹冠長)の測定方法と実施上の問題点について説明します。

1. 幹周

(1)測定方法

地表から 1.3m の位置の幹周を巻尺(cm 単位)により測定する。斜面の場合は、斜面の上側(山側)の地表からの高さを測定する。幹が測定位置で複数に分かれている場合は、各々を測定する。傾斜木は、測定位置で幹に対して垂直に測る。測定位置に大きなコブがある場合は、その上下を測り平均する。また、ツルなどが絡み付いている場合は、それらを除去して測定する。根上がり木は、根と幹の境を地表(地際)として測定位置を定める。

(2)問題点

急傾斜地 平坦地に立っているが片側が崖の例が多い では、測定位置に沿って正確に巻尺を回すのが困難。
根上がり木について、根と幹の境を特定するのが意外と難しい。
調査木はいずれも名木で、ツルもその風格(樹貌)の一部であり除去が困難。



2. 樹冠長

幹を中心とした樹冠の最大長と最小長を、樹冠の先端位置を下から見上げて特定し巻尺で測定する。なお、剪定など人為により樹冠が変形している場合は、その旨を明示(記録)する。問題点としては、隣接木があると樹冠が重複し先端の特定が難しい。片側急傾斜地では巻尺をきちんと張れない。

以上ですが、これらの問題点については皆で話し合い工夫しながら対処しています。これまで 36 本を調査していますが、気になるのは幹周について前回 1990 年の測定値との関係です。ほぼ 15 年経過しているので、その間の成長分がプラスになるはず(半径 = 年輪幅 = が年 1mm 成長すると幹周は 15 年間で約 9.4cm+)。現地調査の際に + - の差が大きい場合は測定位置、欠損の有無などを確認の上再測定を行っています。それでも疑問が残る木については、年内に再度現地調査を実施する予定です。

固い話に終始しましたが、幹周に巻尺を回す、樹冠を見上げる...木肌に触れ、梢の葉の間から空に触れる...数百年の歴史に思いを馳せる...メンバーの方々、それぞれに楽しんでいることでしょう。

写真タイトル：幹周測定風景-山側 1.30m 位置を測定。谷側では松本さん考案のポール先に巻尺を引っ掛けて位置を特定。傾斜・根張り・凹凸と調査員泣かせ 撮影者：増田勝彦 撮影場所・期日：小坂町十三塚墓地内・10月1日

「市民の木」周辺樹木の胸高直径の測定をめぐって

報告：石川満夫

計測班・植生グループの活動を説明します。構成人員 7 名で、活動内容は二つあります。一つ目は次年度以降の調査樹木選定のため、「市民の木」周辺の巨木・古木・希少木の種類調査とそれら樹幹の胸高(高さ 1.3m)直径の測定です。二つ目は「市民の木」周辺の植生調査です。ここでは、前者について説明します。

まず、樹木の選定から始まります。「市民の木」は神社やお寺の境内・敷地内、個人の屋敷内等に生育しています。そのため「市民の木」周辺を歩いて調査し、測定対象樹木を選定します。その選定樹木の幹の直径を測定し、測定値と樹木名を記録します。種類の識別に相当な観察力と知識力が必要な樹木が多少あります。それもまた楽しみの一つです。直径の測定は掲載画像のように、高さ 1.3m のところに印を付けた棒を幹に当て、その印の位置で輪尺という測定器で測定し、その測定値を樹木名と共に記録します。直径を測定する際には、次のようなことに留意しながら作業を行っています。

測定位置にコブがある樹木は、コブを避けて測定するため、測定値に誤差が発生する場合があります。

樹木が傾斜している場合、幹に直角に測定しますが、正確な測定が難しいことがあります。測定木周辺の足場が悪く作業が困難な場合は特に足場をしっかりと確保し、安全第一で作業を進めています。

「市民の木」周辺の樹木調査および植生調査は順調に進捗してきました。今回の樹木調査の結果、次年度以降の調査木の候補として次のようなものがあげられました。

巨木：ケヤキ 8 本、スダジイ 4 本、シラカシ 2 本、スギ、ムクノキ、ヤマザクラ。

古木・希少木：イヌザクラ、イロハモミジ、ウコン(サクラの園芸種)、ウワミズザクラ、カシワ、サイカチ、サザンカ、チャンチン、ヒサカキ、モミ、ヤブツバキ。

写真タイトル：植生 G の胸高直径測定風景 撮影者：増田勝彦 撮影場所・期日：岡見町千部塚共同墓地内・8月26日



今月の巨木

担当：巨木リサーチ事業総務

地域の銘木

毎月「巨木・古木・希少木リサーチ」の対象の地域の銘木をお伝えします。

[宝積寺イチョウ]

樹高 20m
 幹周 3.10m
 樹齢 推定200年
 所在地 牛久市岡見町1723 宝積寺境内

中国原産の落葉高木で、古生代、中生代が全盛時代であったため、生きた化石ともいわれています。秋の夕日にあたる黄葉の美しさは、よく知られています。木には、雌木と雄木があって、雌木には実がなり、その中にギンナンといわれる種子ができています。

宝積寺は、天正10年（安土桃山時代）の開基で、岡見氏の菩提寺でした。
 「市民の木」案内板より



撮影 増田 勝彦

お知らせ

ありんこくらぶより製品の紹介

こんにちは、どんぐりねずみでチュウ -

マテバシイのどんぐりを体に、黒いビーズのつぶらな瞳は、アカネズミくん彼はどんぐりが大好物。観察の森にもたくさんいます。（ちなみにフクロウは彼が大好物）1匹作るのに少し工程が多いのでたくさん数はできません。ありんこコーナーで見かけたらチャンスです。是非協賛金を入れてお手元に連れていってね。



今月の運営委員会より

平成18年12月17日

< 議席数18名のうち12名出席。1/2以上の出席 >

1. 自主事業、特別事業責任者による事業計画書の説明・質疑応答が行われました

各プロジェクトから出していたいただいた平成19年度事業計画書（予算計画書）に基づいて説明・質疑応答が始まっており、以下の予定で行われます。

- 12月17日（日）運営委員会にて自主事業・特別事業P代表から事業計画書の説明。
- 12月17日（日）理事会にて受託事業担当から事業計画書の説明。
- 1月18日（日）運営委員会にて自主事業・特別計画書の了承。
運営委員会後に開催される臨時の理事会にて承認。
- 1月18日（日）臨時の理事会にて受託事業計画書の承認。

2. 里山の会のぼり旗を作成しました

「NPO法人うしく里山の会」の文字が入ったのぼり旗を20本作りました。通行人に私たちの活動を見ていただくのと、私たちの意識改革のねらいがあります。森NCの倉庫に保管してあります。活動中のフィールドに立てたり、リヤカーに立てるなどしてご活用ください。



1月の里山カレンダー

活動日は都合により変更になる場合がありますので、ホームページ等でご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
	1 (休園日)	2 (休園日)	3 (休園日)	4	5	6 雑木林応援隊 9:00炭小屋
7 雑木林応援隊 9:00炭小屋	8 成人の日 雑木林応援隊 9:00炭小屋	9 (休園日)	10 (休園日)	11 雑木林畑隊 13:00畑	12 雑木林畑隊 13:00観察舎畑	13 巨木古木リサーチ(受託事業) 資料展・市共同打合せ 9:00ボラ・市民活動C (会報等原稿切)
14 雑木林応援隊 9:00ムジナ	15 (休園日)	16	17	18	19 ありんこクラブ 13:00NC	20
21 運営委員会9:00NC 理事会11:00NC 広報11:00NC	22 (休園日)	23 巨木古木リサーチ(受託事業) 市連絡会 9:30市会議室	24 雑木林畑隊 13:00畑	25 会報発送 13:00NC	26 雑木林畑隊 13:00観察舎畑	27
28 雑木林応援隊 9:00炭小屋	29 (休園日)	30	31			

森：観察の森，NC：観察の森ネイチャーセンター，(受)：受託事業，P：駐車場，(休園日)：観察の森休園日

会報原稿募集中！

会報「さとやま」の原稿を募集しています。各プロジェクトや特別事業からの報告、「さとやま」にふさわしい情報などをお送りください。

原稿は400字詰め原稿用紙2枚(A5)または4枚(A4)の分量でお願いします。テキスト(手書き可)をメール、または郵送でお送りください。写真がある場合はプリントまたは画像ファイルもお送りください。(写真を含む記事はそのぶん文字数を減らしてください。)記事送り先は下記です！

牛久自然観察の森 久保庭敦男
メー ル

skyranger-mori@u-satoyama.jp

300-1212

牛久市結束町489-1牛久自然観察の森

編集後記

みなさんは、今年はどんな年にしたいと思われませんか？
実は、私にも『人生の目標』があります。現在の自分からすればかなりレベルの高い目標なのですが、10年計画で目標を実現したいと考えております。

私の目標とは！「大自然の道理に順応した生き方を伝える私塾を作る」ことです。目標実現のために、今年は日本



中のいろいろな環境教育施設を訪ねてみたいと思います。できるかぎりたくさんの志を持った方たちにお会いしてお話を伺ってみたいです。少しでも目標に近づくために、学びを深め、成長を心がけたいと思います。

(記 安村)

次号(2007年2月号)の印刷発行は1月25日午後1時を予定しています。お手伝いいただける方を随時募集してます！編集担当者にご連絡ください。よろしくお願いします。

会報さとやま 2007年1月号(発行・NPO法人うしく里山の会)

事務局 300-1212 茨城県牛久市結束町489-1 (牛久自然観察の森内) 電話029-874-6600